

## 3-5. NPO 法人フジの森（東京都西多摩郡檜原村）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

#### ●地域の概要

檜原村の面積は 105.42km<sup>2</sup> となっており村の周囲を急峻な山嶺に囲まれ、総面積の 93%が林野で平地は少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれている。

村の中央を標高 900m～1,000m の尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れていて、この川沿いに集落が点在している緑豊かな村である。人口は、平成 26 年 1 月 1 日現在 2461 人。

#### 【位置】

東京都多摩地域の中で唯一の「村」であり、都心から約 50km はなれた東京の西に位置する緑豊かな大自然の中にある。

南は山梨県、神奈川県に接し北は奥多摩町に、そして東側がわずかにあきる野市に向けて山が開け、村外への交通路となっている。

#### 【自然】

自然の宝庫、東京都の奥座敷といわれており、豊かな自然は多くの動植物を育み、奥秋川の清流と奥深い山々は、格好の繁殖地として多くの鳥獣や植物を東京の中で見ることができる数少ない貴重なところである。

#### 【歴史】

村の歴史も古く、明治 22 年の立村以来百有余年、名称も区域もそのまま秋川源流の大自然の中で貴重な歴史を積み重ねてきた。

縄文時代の遺跡をはじめ多くの出土品が発掘されており、伝統芸能は式三番叟、神代神楽、囃子、太神楽、獅子舞等が連綿と伝承され、毎年初秋には各地域で盛大に上演される。

#### 【観光】

観光面では、村の 80%が秩父多摩甲斐国立公園となっており、豊かな自然の佇まいそのもの全てが観光資源である。

村を訪れる観光客は、四季様々な彩りに魅せられ、年間 37 万人にも及んでいる。

また神戸岩や弘沢の滝、歴史・文化遺産を展示した郷土資料館や滝巡りなどの観光ルートや、山岳自然公園の都民の森が人気の的となっており、加えて、民宿の多い数馬地区に「数馬の湯」温泉センターもあり、日帰り観光を含め多くの方々に親しまれている。



## ●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

檜原村の各地域において観光客向けの様々な企画が行われるようになり、ガイドもいる。そこで真板氏のエコツアーリズムツアーの 방식을伝えながら、各々の地域で企画をたて、それを檜原全体のツアーに出来るように考えた。

## (2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 26 年 1 月 18 日 (土) ～平成 26 年 1 月 20 日 (月)
場 所	東京都西多摩郡檜原村 本宿地域
アドバイザー	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏
参加者	檜原村職員：檜原村都民の森所長、檜原村産業観光課、東京都レンジャー（現・元）、温泉センター数馬の湯センター長、檜原村森林セラピー推進協議会会長他、檜原村弘沢の滝冬まつり実行委員会会長他、延べ 16 名
スケジュール・方法	<b>【1 日目】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・四季の里にて食事（地産地消食材）</li><li>・本宿周辺の観光視察 檜原村ふるさとの森・弘沢（ほっさわ）の滝・石仏、春日神社、岩船地藏、吉祥寺</li><li>・講演会「エコツアーの商品化と事業化」 エコツアーの作り方、エコツアーの情報発信、 エコツアーを業として成り立たせるための仕組みづくり</li></ul> <b>【2 日目】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・前日のアドバイスをを受けて地元事業者を視察・意見交換 ちとせ屋・たちばな屋・(株)中林業・(株)チェンソーズ・檜原村観光協会、 東京都レンジャー（檜原地区）</li></ul> <b>【3 日目】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・前日のアドバイスをを受けてエコツアー企画を検証</li></ul>

## (3) アドバイスの内容

真板氏が「エコツアーの商品化と事業化」の講演会を行い、まずエコツアーの作り方について、先進地の事例を挙げて説明、次にエコツアーの情報発信の例としてその地域の資源・魅力を網羅したフェノロジーカレンダー（季節暦）について述べ、次いでエコツアーを業として成り立たせるための仕組みづくりについて説明、直ちに参加者に呼びかけ、本宿地区におけるフェノロジーカレンダーの制作作業に入った。

なお、作業の合間に真板氏から、エコツアーの基本になる地域の季節ごとの情報を作るフェノロジーカレンダー制作は、ツアーのストーリーを考える基本であるとアドバイスがあった。

今回は、下記「アドバイザー派遣実施の効果」の記載にある通り、参加者の意識が高かったため、初めに南大東島のフェノロジーカレンダーと檜原村でも 15 年前に（数馬地区）で作ったマップを参考資料として提示して説明を加えたため、参加者は特に質問はなく、早速本宿地区で作ってみようとの声が上がった。

そこで、すぐに用意した模造紙（写真講演会の様子参照）の横軸に 4 月～3 月、縦軸に自然・祭行事・文化・風景イベントに分けたところに、各参加者が付箋に情報を書き入れて、貼り付ける作業を続け、フェノロジーカレンダーが出来た。

●1日目



四季の里にて食事（地産地消食材）



地元食材を活かした「ひるげ」



本宿周辺の観光視察 ふるさとの森



払沢の滝とその案内板



春日神社



春日神社境内の村天然記念物ケヤキ



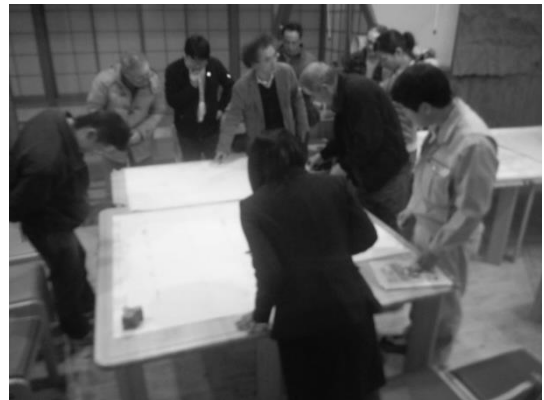
岩船観音



吉祥寺



四季の里を会場に参加者にアドバイス講演会



●2日目



地元事業者を視察・意見交換 ちとせ屋



橋本旅館

● 3 日 目



エコツアー企画を検証



完成したフェノロジーカレンダー作業図

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スミレ各種												
しだれ桜(入里、下川美)												
カタクリ												
ミツバツツジ(藤倉)												
イカリソウ												
フキ												
のびる												
葉わさびつけ												
ウド												
シタケ												
セリ												
山椒の葉佃煮												
ニンソウ												
夏鳥のさえずり												
オオルリ												
ムササビ												
新緑												
シラカバ林(御林山など)												
フデリンドウ												
アオバズク												
タケノコ												
ワラビ												
こごみ												
フキ												
イワウチワ												
ねんねんぼう収穫												
フナ新緑												
エゾハルゼミ												
のらぼう												
ウツギ各種												
オオルリ												
アジサイ(敷島)												
山椒の実												
紅茶												
ジャガイモ												
キャベツ												
インゲン												
ホタル												
お茶摘み												
モリアオガエル												
ヤマボウシの木(中木)												
おいねつるいも												
七夕飾り												
シャガ												
カブトムシ												
クワガタ												
レンゲショウマ(都民の森)												
イワタバコ												
サラナショウマ(浅間産)												
キハダ採集												
ヤマドリカブト												
季節限定豆腐(?)												
そばの花												
ミョウガ												
青ゆず												
かぼちや												
里芋												
オアシ会												
リンドウ												
やまね出窓												
柚子こしょう												
ガボチョウ												
ショウガ												
スイキ												
めぐすりの木(葉)採集												
ホット豆乳販売開始												
シモバシラ(御前山、浅間産)												
シモバシラ(都民の森)												
動物のフンがフィールドに目立ち始める												
干し柿												
積雪時アニマルトラッキング												
クマ糞が目立ち始める												
こんにやく												
門松												
漬物												
餅まき												
餅分												
白萩												
じゃがいも焼酎												
炭・チップ												
味噌作り												
雑料理												
フクジュソウ(小岩)												
アユ解禁												
アブラチャン												
芋がら												
草餅												



## ●今後の取り組み

- ・今回の「エコツーリズム推進アドバイザー派遣」の実施が、参加者や関係者に与えた効果として、檜原村の各々地域での企画を、この真板氏のアドバイスにより、今後も継続的に集まりを持つこととなった。
- ・今後の地域におけるエコツーリズムの推進に対してもたらされることが期待される効果として、ツアー企画を考える基準が檜原内で多く組まれることにより、参加の選択肢が増え、村の活性化に繋がることが挙げられる。また、エコツーリズムの定義である、下記を共有することにより特化したツアーを檜原村全体で企画することが出来る。
  - (1)自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること。
  - (2)観光によってそれらの資源が損なわれることがないように、適切な管理に基づく保護・保全をはかること。
  - (3)地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、資源の保護+観光業の成立+地域振興の融合をめざす観光の考え方である。それにより、旅行者に魅力的な地域資源とのふれあいの機会が永続的に提供され、地域の暮らしが安定し、資源が守られていくことを目的とする。
- ・今後の取り組みとしては、フェノロジーカレンダーをデータ化して、参加者で共有し、ツアーのストーリーを考える。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

エコツーリズム協会が旅行業を取得していることによる協力体制認定を行う計画が参考になった。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

檜原村フジの森は富士フィルムグリーンファンドのモデル地域として資金の提供を受けて宿泊体験施設「フジの森」を建設し、地元の青年会であった冬来塾が中心となって、都市に住む人々に森の中での自然活動や森づくり体験プログラムを提供する所からスタートしている。後に、今から数年前に周辺の森林 2ha を村に買い取ってもらって、NPO 法人「フジの森」として第二期のスタートを開始。宿泊施設としての「フジの森」の活用、さらに指定管理施設として「教育の森」研修施設を連携活用し、様々な体験プログラムを年に 90 回以上実施している。また「四季の里」レストランを地域のお母さん達の参加を促しながら運営し、観光客に郷土食を提供したり、さらには木を用いたログハウスや檜原紅茶などの様々な物産開発を行って村の活性化に係っている。さらに自然ふれあい体験地域づくりとして、放置されていた森を整備活用した「ふるさとの森」作りを進めている。

檜原のお母さんたちを巻き込んだ食と地域の若者による体験と研修、そして森作りをコーディネートして、一体化させた村おこしに係る「エコツーリズムプログラム」の策定を開始し、実施に向けた体制づくりの準備を始めている。

課題としては NPO 法人フジの森では、エコツーリズムをじっくり進めて行く上での環境整備と体制がほぼ完成し、いよいよ最終段階の本格的なエコツアーの実践段階に入ったと言えるのではないかと。そのために、ツアーを実現できる旅行資格を持った外部団体との連携、法人スタッフとしてのランドオペレーションが出来る若手人材の育成、などが重要な課題となって来ている。

### ●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

檜原村で特に魅力を感じた自然資源は「人為的に植林され、管理された美しい森」と「管理される事によって身近にふれあうことの出来る多様な野生の動植物」と言える。また東京都の源流部に位置する南秋川である。

さらにこれらの自然とふれあう中で生まれてきている「奥秋川固有の伝統芸能や食文化」にあると言える。

### ●アドバイス（講義等）の概要

#### ■ツアー・プログラム開発のためのフェノロジーカレンダー制作とツアー企画の組み立て方のアドバイス

エコツーリズムツアーの方式を伝えながら、檜原村本宿を中心にツアー企画を立てられるようにするためのフェノロジーカレンダーを作成し、それを元来实现可能なツアー企画の組み立てと実施方法についてのアドバイスを行った。

### ●全体構想への取組状況・意向について

今後の意向としては、課題にも書いたが、いまは若者と商業設備の集中している本宿地区を中心にエコツアー実施を考えているが、今後は、奥座敷に位置する温泉地区である数馬地区にも波及させてもらい、檜原村のエコツーリズムの 2 極拠点の形成を図って頂きたいと思う。

檜原村ではまだ行政の中に協議会を作って構想を作ろうという機運が熟するまでには至っていない。ようやく若手が積極的に活動を始めて、エコツーリズムを活用しようとし始めている時点である。今後 NPO 法人フジの森によってエコツアーが実施され実績が蓄積されて行けば、村行政も動き始めると考えられる。



## ●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

檜原村は、以前に比べて地域で、お豆腐屋さん、ガイドさん、など第二世代として家の跡を継ぎ地域で活躍を始めた若者の関心が高まっている事が感じられた。

ただ現実問題としてかなり日常活動に忙しく、自らがガイドとなって活動する事は難しいが、ランドオペレーションされた企画にお客さんをガイドが連れてくれば、観光客に満足してもらい、十分なもてなしも出来るところまで来ていると感じた。エコツアーの実施までもう一息だと思う。頑張ってもらいたい。

今後は、更なる推進のためにも、本宿地区や数馬地区を中心に、エコツアー・プログラムを組み立て、プロモーションから販売までもっていくことのできるエコツーリズム・プロデューサー、あるいはランドオペレーター役割を NPO 法人「フジの森」が担って行く事が実現の可能性を高める事につながると思われた。